



会長 佐藤 友彦 幹事 櫻井 武志

事務所:神奈川県足柄下郡湯河原町宮上 566 湯河原温泉観光協会

TEL 0465(64)1234 FAX 0465(63)1716 例会場:ニューウェルシティ湯河原 例会日:毎週金曜日 12:30~13:30

## 会長挨拶

佐藤 友彦

皆さん、こんにちは。本日も例会に出席頂きましてありがとうございます。

年度もスタートして5ヶ月が過ぎようとしています。先般、例会のご挨拶でもお話ししましたが、本当に1週間経つのが早く、会長挨拶の材料探しに奮闘しています。

その様な状況の中で、先日以前在籍していた団体の会合がございました。他地区ではございますが、過去にガバナーを経験された方や現職の方もいらっしゃいましたので、会長挨拶についてご相談をさせて頂きましたところ、自らの人生に照らし合わせてロータリー感を話せば良いとか、会長挨拶を聞くのが楽しみで出席している会員も居るからしっかりと準備していきなさいとか。非常に参考になると同時に高いハードルを頂戴してしまいました。今後も皆様に少しでも有益であると同時に楽しみにして頂ける様な挨拶が出来るよう精一杯努力して参りたいと思います。

そして、話は変わりますが本日は午前中に仕事の関係で大井町へ行って参りました。私はスターバックスが好きで近くにある際は必ずと言ってよいほど立ち寄ります。本日は例会である為、ドライブスルーにしました。その際に年齢の若いスタッフが決してマニュアルでは無く、凄く自然体で自ら考えた様に今日もお気を付けて下さいね。また、お待ちしております。そんな言葉を投げかけてくれました。普通のありがとうございました。という御礼の挨拶だけでは無く、一言添える事で私の心はほっこりとし何とも言えない心地良さを感じました。決して言わされているものではなく自らの言葉として発する事は簡単な事では無いと思います。そんな事を恐らくアルバイトやパート形態のスタッフが日常的に行えることがスターバックスの強みであり働きたい方が絶えないというブランド力に繋がっていると思いました。その後も真鶴道路の料金徴収の方も気の利いた言葉を言ってくれた事も重なり本日は例会会場までの道中に改めて、自らの意識によって行える、小さな親切心の大切さを実感したので、そんな事をお伝えしてご挨拶に代えさせて頂きます。

本日もよろしくお祈りします。ありがとうございました。

幹事報告 無し

## 連絡事項

1. 日曜日の地区大会に参加される方は、湯河原駅に9時50分集合、10時出発ですので遅れないようにしてください。尚、バス・弁当代としてお一人4000円を徴収いたします。宜しくお祈り致します。

## スマイルボックス

結婚記念日 佐藤友彦君(11/25)

ご夫人誕生日 佐藤友彦君(ゆめ様・11/24)

ご夫人誕生日 伊藤伸之君(和子様・11/30)

入会記念日 平間章弘君(28年・H7.11.24)

福山茂君(相模原グリーンロータリークラブ)

本日は、財団学友の毛馬内裕子様にご卓話をさせていただきます。皆様の寄付のおかげで毛馬内様はじめ多くの優秀な方が海外留学をかなえております。重ねて御礼申し上げます。

高杉尚男君・渡辺久恭君・望月博文君

昨日2年ぶりにさがみ信金湯河原信和会のゴルフコンペを開催することができました。

葉維英君

湯河原カンツリークラブ会員のバッチを頂きました。石川博会員のご紹介のおかげです。ありがとうございます。レベルアップをしていきたいです。

青木義美君

明後日の地区大会、ぜひ参加したかったのですが私が会長をやっているイベントと重なり欠席でごめんなさい。

## 出席報告

ゲスト 1名 ビジター 2名

会員 22名 欠席2名(免除者0名)

出席率 90.91%

前回の修正出席率 90.91%

前々回の修正出席率 86.36%

事前メイクアップ 2名

ゲスト 毛馬内裕子様(ロータリー財団学友)

ビジター 井上善博様(秦野ロータリークラブ)

ビジター 福山 茂様(相模原グリーンロータリークラブ)

こんにちは。私は1989年と1997年にそれぞれ大磯RC、二宮RCのスポンサーでアメリカへ財団奨学生として留学いたしました、毛馬内裕子(けまないゆうこ)と申します。専門は国際経営学、特にマーケティング戦略が専門です。この度は湯河原ロータリークラブでの卓話の機会をいただきましてありがとうございました。

どんなことを話したらよろしいかと少し悩みました。と言いますのも、私が国際親善奨学生として留学したのはほぼ35年前で、あまりにも遠い昔だからです。そこで、自分のこれまでのロータリーとの関わりと留学、職歴を通しての経験について、今日はお話しできたらと思います。

私は1989年に大磯RCのスポンサーで、アメリカメリーランド州の Hood College(フッドカレッジ)へ留学しました。選考はビジネス、マーケティング専攻です。1991年に大学を卒業、東洋インキ製造株式会社へ就職し、そこからイスラエルとの合弁会社である、日本サイテックス株式会社へ出向しました。そこでは年に2・3回マーケティング会議へ参加するためにイスラエルへ出張しておりました。ちなみに、その7年後、1997年に二宮RCのスポンサーで、アメリカアリゾナ州のサンダーバード国際経営大学院へ留学しました。専攻はMBAです。昨今のイスラエルとパレスチナの衝突は、外から見ても感情的に非常に苦しいものがありますが、今回は私が感じたイスラエルのユニークな側面をいくつかご紹介できたらと思います。

① イスラエルへ行きのヨーロッパ空港でのトランジットについて～イスラエルへはヨーロッパ(ドイツ、フランス、イギリスなど)経由で入ります。(今では直行便があります。)ヨーロッパの空港ではイスラエル行の搭乗口は通常の搭乗口とははるかに遠い場所にあります。ヨーロッパ内のトランジットとは全く違う場所からぼつんと搭乗することが多いです。なぜならば、ひとつは持ち物検査を念入りに行うからです。そこではスーツケースから手荷物の細かいところまで入念に行われます。非常にセキュリティに気を使っているということにもなります。

② イスラエルへ入国する際、入国スタンプを白い紙に押しってもらうことがあります。なぜならば、イスラエルへの入国スタンプがあると、他のアラブ諸国へはそのパスポートでは入国できないからです。ちなみに、大学院の時に研修で訪れたアラブ首長国連邦では、イスラエルにメールを送ることはできませんでした。アラブ諸国とイスラエルの間では様々な場面で対立が見られました。

③ イスラエルの徴兵制～イスラエルは高校を卒業すると男子は3年、女子は2年兵役があります。兵役が終わっても男性は50歳まで毎年徴兵され訓練を受けます。私の同僚は毎年2週間ほど会社を抜けて兵役に従事していました。ちなみに役割は色々ありますので、必ずしも銃をもって軍事訓練を受けているというわけではなさそうでした。同僚は主に通信関係の訓練を受けていたようでした。これが原因で私が抱えていた

プロジェクトが進まないこともありました。

④ イスラエル企業のビジネスタイム～イスラエルの一週間は日曜日始まりの木曜日終わり、金土が安息日で休日です。日本は土日が休日ですから、合わせると4日間しかビジネスタイムが合いません。仕事を運ぶ際にもそれを考慮して進める必要がありました。

⑤ イスラエルのエルサレム旧市街での出来事～エルサレムはユダヤ教、キリスト教、そしてイスラム教にとっての聖地です。中でも有名なのは「嘆きの壁」ですが、ここは男性用と女性用に分かれていて、壁に願い事を書いた紙を詰め込んで祈ります。従って壁を見ると細かい紙だらけです。壁を超えたところにイスラム教が建てた「岩のドーム」があります。岩の～と言いながら、天井は黄金です。中に何かあるわけではないのですが、昇天の地とされるところが囲われています。こちらの壁画は私が今まで見てきた美術品の中でも一番美しいものでした。特筆すべきは、ユダヤ人は嘆きの壁を越えて彼らの聖なる場所へ行くことはできませんが、私たち観光客は壁を越えてドームに行くことができます。更にイスラム教ではなくてもモスクの中に入る事が可能です。

⑥ イスラエルでの車両ガラスの修理～イスラエルでは人種によって車のプレートナンバーカラーが違います。イスラエル人の車は黄色、パレスチナ人の車は緑または青色のプレートです。エルサレムの旧市街で車のガラスを割られたことが2回ありました。その度に警察で被害届をだすのですが、そこで渡された書類をもってガラスを修理すると国がその金額を保障してくれます。つまり、車のガラスを割られることが日常茶飯事の前提で政府による補償が成り立っているのです。

⑦ イスラエルからの出国～イスラエルから出国する日は朝2時頃起きて空港に向かいます。なぜならば出国検査に異常なまでの時間を取っているため、毎度ぎりぎりです。同じ質問を違う検査官(概ね兵役についている若い兵士たち)が交代で2,3回行います。会社に書類を書いてもらってもあまり有効的ではありませんでした。また朝の早い時間帯、6時頃にほとんどの民間機が次々とテイクオフします。なぜなら離陸時が一番攻撃されやすいからだそうです。

以上は私が経験して感じた、イスラエルのユニークな一面です。もっといろいろあります。(いつかまたご紹介できればとは思いますが…)これらの経験は、ロータリー奨学生として留学させていただいたことから始まっています。また、イスラエルと出会ったことが、人と違うユニークな人生を歩んでもいいんだということを感じさせてくれました。

その後、様々な外資企業を経て、今はNTT東日本で派遣社員として母の介護をしながら働いています。本日の卓話を通して、年齢という大きい壁があるものの、私もいつかまた違うことをやってみたいと思いつつ、日々精進していこうと改めて思いました。

本日は卓話の機会を与えてくださりまして、ありがとうございました。